

令和5年伊賀市議会12月定例会会議

請 願 文 書 表

令和5年12月1日



1	受 理 番 号	請願第20号
2	受 付 年 月 日	令和5年11月22日
3	請願者の住所 及び氏名	伊賀市柘植町7153番地 あけぼの学園高校地域支援協議会 代表 亀井 安之
4	請 願 の 件 名	県立あけぼの学園高等学校の存続を求めることについて
5	請 願 の 要 旨	<p>三重県教育委員会が令和4年3月に策定した「県立高等学校活性化計画」には「1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議を行うこととする」との方針が示されています。</p> <p>伊賀地域では、あけぼの学園高等学校が対象となりますが、同校は伊賀地域初の総合学科として4系列（美容・フード・情報・福祉）の特色ある教育が展開され、幾多の人材を輩出してきました。</p> <p>さらには小規模校の特徴を活かし、不登校を経験した生徒や外国につながりを持つ生徒など、生徒の多様な実態に応じたきめ細やかな指導により、一人ひとりの個性を伸ばし、全日制高等学校として学びと進路の保障を進めてきました。</p> <p>よって、あけぼの学園高等学校の安易な統合は、伊賀市にとってなくてはならない3校体制を崩し、子どもたちの進路の幅をせばめるだけでなく、子どもたちの夢や希望への意欲を奪ってしまう危険性があります。</p> <p>伊賀市内の3つの全日制高等学校は、それぞれ学校の特色を活かし、互いに連携し、地域・企業・行政の支援のもと、郷土の貴重な教育機関として位置づき、将来にわたる伊賀市の教育環境の充実、まちづくりや地域活性化への貢献の一翼を担う存在として役割を持たせるべきです。</p> <p>以上のような理由から、県立あけぼの学園高等学校の存続及び伊賀市内の3つの県立高等学校の維持を求める意見書を県の関係機関へ提出されるようお願い申し上げます。</p>
6	紹 介 議 員	北森 徹、福岡 正康、宮崎 栄樹、山下 典子、赤堀 久実 百上 真奈
7	付 託 委 員 会	教育民生常任委員会

1 受 理 番 号	請願第21号
2 受 付 年 月 日	令和5年11月22日
3 請願者の住所 及び氏名	「より良い保育」目指す請願運動を進める保育士の会 共同代表（中勢伊賀地域）廣瀬 玲子
4 請 願 の 件 名	子どものために「保育士配置基準の引き上げ」と「労働条件改善による保育士の増員」を求める意見書の提出を求める請願書
5 請 願 の 要 旨	<p>令和5年3月17日の三重県議会において、「より良い保育」のために制度改善・支援を国に求めることについての請願が、全会一致で採択されました。そして、国へ「保育士配置基準及び処遇改善等を求める意見書」が提出されました。</p> <p>ところが政府は、配置基準改善の必要性を認めているものの、全ての保育所へ適用する「配置基準そのものの改善」ではなく、補助金の「加算」とする方向です。また、その財源は年末までにと明確ではありません。</p> <p>保育所は、子育て家庭を支える施設であり、幼い子どもの発達を保障し、命を守るための不可欠な社会資源です。ところが、保育所の機能拡充が進む一方で、職員配置や施設基準の改善は進まず、国際的にも低い水準のまま放置され、職員の負担が増大しています。保育所での事故が増大している状況などを踏まえれば、現在の配置基準は不十分であり、子どもの命と安全を守るためにも保育士増員が急務となっています。そのことは私たちが取り組んだ「県内保育士QRコードアンケート」でも明らかです（公立民間保育士8,831名中、1,104名の8人に1人が回答）。</p> <p>政府は、国が直面する最大の危機である少子化を反転させるとして「こども未来戦略方針」を2023年6月13日に閣議決定しました。その中で、「75年ぶりの配置基準改善」として、①「1歳児の子ども6人に対し保育士1人」の基準を「5対1」に、②「4、5歳児の子ども30人に対し保育士1人」の基準を「25対1」に改善することが盛り込まれました。</p> <p>ところが基準を改善しても保育士が確保できない、保育士の過酷な仕事にもかかわらず低賃金（全産業の平均賃金を5万円以上も下回っている）であることなど労働条件の改善は進んでいません。国の方針では、職員の更なる処遇改善を「検討する」との表現にとどまっており、この面での施策の具体化が課題です。</p> <p>以上のような理由から、国に対して「子どものために保育士配置基準の引き上げと、労働条件改善による保育士増員を求める意見書」を提出していただくようお願い申し上げます。</p>
6 紹 介 議 員	森中 秀哲、百上 真奈
7 付 託 委 員 会	教育民生常任委員会